

森林環境教育（森林ESD）プログラム分析シート

団体名： 特定非営利活動法人 クワガタ探検隊

プログラム名： 育て！大都市の森・箕面国定自然林の守り人

プログラムの目標	持続的な「自然原体験活動」を通して、太古からの「生命の営み」を五感で体感し、自発的に森林にかかわろうとする『未来の森の守り人』を育成する。
プログラムの概要	①” 四季変化” を体感できる「森林探検活動」 ②” 夏休み” を活用した「カブト虫里親飼育活動」（各家庭） ③” 森林昆虫紙芝居” の上演による「読み聞かせ活動」 ④” 子どもスタッフ” による観光客への「自然ガイド活動」

プログラムの展開

時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
2	「森林探検活動」	
	身近な森林地域（公園など）を探検する。 （花さがし、ドングル拾いなど）	<理科> ・「自然観察での注意事項」を指導する ・森林内では「班行動」をさせる ・「五感」をフル活用して、自然を体感させる
夏休み	「カブト虫里親飼育活動」	
	夏休み期間中「カブト虫♂♀飼育・産卵・幼虫増殖活動」を、各家庭で協力して行う。	<理科> ・各家庭での「飼育許可」を受けておく ・「正しい飼育方法」を指導する ・「飼育セット」（虫・容器・エサ等）を準備する ・9月には「増殖幼虫」を回収して自然飼育する
1	「読み聞かせ活動」	
	創作紙芝居「帰って来〜い！王者くん」の読み聞かせ会を実施する。	<道徳> ・「創作紙芝居（カブト虫編）」を用意する ・上記の紙芝居は「DVD版」でもよい ・子どもたちの「感想文」を紹介する
2	「自然ガイド活動」	
	子どもが「ガイド役」となる「自然ガイド（箕面の森など）」を行う。	<理科> ・場所は「人々が多く集まる場所（モミジの頃の箕面滝道など）」で実施する ・安全のため「保護者同伴案内」とする ・事前に「案内文」を作成しておく
1	「発表会」	
	森林ESDの年間活動総括のための「発表会」を行う。	<総合> ・月例の「参観日」や「校内学習発表会」などを利用する ・写真や活動ビデオ等の情報機器も使う

森林環境教育の視点	1 感性的経験	感性的な内容－森林の感覚的把握や美的把握、畏敬の念など			
	2 自然的特性	森林の自然的特性に関わる内容－植物や動物の生態など			
	3 多面的機能	森林と人とのかかわりに関する内容－森林の働き、保安林など			
	4 現状・課題	森林の現状に関する内容－森林の荒廃、人手不足など			
	5 管理・維持	森林の管理・維持に関する内容－森林整備、育成、維持、管理など			
	6 歴史・文化	森林とのかかわり方の歴史－その土地での歴史、薪炭林、炭焼き			
項目番号	活動の分析（森林環境教育の視点） 上位3項目				
1 感性的	五感（目・耳・鼻・舌・手ざわり）を使っの「自然体感の方法」で自然を感じとる。（特に、視覚の働きにくい「夜のカブト虫探検」などは、効果的です）				
2 自然的	子どもたちが「強い興味・関心を示すカブト虫・クワガタ虫」に『視点をしぼりこむ』ことが大切です。視点を集中させないと「単なるあそび」になる。 その上、現代っ子は「自然遊び」の経験にも乏しい。できない。				
4 現状	情報化（映像・ゲーム機）社会で育つ子どもたちを「自然につれ出すこと」は、不可能に近い。まずは、各家庭協力による『カブト虫里親飼育活動』から始めるべきである！				
E S Dの要素 （生きる力）		能力	1 批判的に考える力	態度	5 他者と協力する態度
			2 未来像を予測して計画をたてる力		6 つながりを尊重する態度
			3 多面的、総合的に考える力		7 進んで参加する態度
			4 コミュニケーションを行う力		
項目番号	活動の分析（能力・態度の視点） 上位3項目と実施後の変化				
2 未来像	大人にもできない「森林の未来像」を子どもたちに押しつけることはできない。 子どもたちには、『数ヶ月後、“たくさんのカブト虫赤ちゃんを育てよう！”』の” 持続的飼育体験をとおしての未来予想” を体験させるしかない。				
6 つながり	紙芝居等の「読み聞かせ会」を通して、『自然生命は、“ つながりの中で生き抜いてきた事実” 』を考えさせる力が身につく。				
7 進んで	単に「自然探検会」に参加するだけでは不十分 『子ども隊主催の自然ガイド会』などの自発的活動を通してこそ『未来の森の守り人』が育つ。				
実施後、参加者の変化	・日本古来からの継承されてきた自然観「共生・畏敬・感謝」に基づく自然体験は、多くの参加者に感動を与えていることは確実です。 ・「子どもを主役にした自然体験活動」に重点を置いた森林E S Dこそ、“ 未来の森の守り人” に誇りと勇気を与えています。				

学習指導要領との関連（上位3項目）		
教科	項目	学習内容
4年理科	季節と生物	家庭で協力して「カブト虫飼育増殖学習」を通して、生命体の”死の悲しみと生命継承の喜び”を知る。
4年道徳	多様な生き方	森林には、多様な生態の生きものが「棲み分け」をして生きていることを「読み聞かせ」学習を通して知る。
4年総合	誇り	小さな「自然案内実践」を通して、『森林の大切さを人々に伝える誇りと苦労』を知る。
プログラムでの学校との連携（取組内容）		
元教員でもあり、小学校での理科を教えながら、『出前授業』（講師と教材セットを持ち込み）を実践している。しかし、なかなか多くの学校で取り入れてもらえるところまではいっていない。（教育委員会が保守的である） また、学校現場は、「多量の学習内容と難しい児童の対応」で、多忙です。		
プログラムでの地域との連携（取組内容）		
「池田市の五月山グリーンエコー（植樹）」、「猪名川ネットワーク（ゴミ拾い）」、「地域コミュニティ（カブト虫里親飼育）」などで、地域との連携を図っています。 身近な地元から、『未来の森の守り人』を育成しています。		
プログラムの今後のめざす方向・展開		
「地域コミュニティ、池田市NPO活動促進協議会、大阪府、農林水産省（林野庁）、企業」などと協働して、身近な里山（五月山）・自然林（箕面国定公園）を舞台として、『未来の森の守り人』を育成していきます。		
現状での課題など		
・学校現場は超多忙で、「具体性のない理想論」に入り込む余地はない。 ・森林ESDなど、環境保全に取り組むNPO団体の数が、急速に減少しています。指導・助成の更なる拡大をお願いいたします。		
質問事項、知りたい情報など		
ぜひ「実践の現場」に視察においでください！		